

JFA 第 47 回 全日本 U-12 サッカー選手権大会 参加報告書

報告書：(東京)ユース審判員(U-18) 林原晴

2023 年 12 月 26 日～29 日に鹿児島県で行われた JFA 第 47 回全日本 U-12 サッカー選手権に審判員として参加させていただきましたので以下の通りご報告いたします。

大会概要

大会名：JFA 第 47 回全日本 U-12 サッカー選手権大会

期間：2023 年 12 月 26 日～29 日

開催地：鹿児島県鹿児島市内

試合会場：・鹿児島ふれあいスポーツランド、鹿児島県立サッカー・ラグビー場(1 次ラウンド・ラウンド 16)

・鹿児島県立鴨池補助競技場(準々決勝)

・白波スタジアム(準決勝・決勝)



担当試合報告

12 月 26 日@鹿児島ふれあいスポーツランド ピッチ 2

1 次ラウンド 【マッチ No.18】 サンフレッチェ広島-小杉 SC

主審：林原 晴(東京都) 補助審判：宮本 舵生(岩手県) INS：石山 JFA：渡辺

1 次ラウンド 【マッチ No.34】 横浜 F・マリノス-ミルマエ FC

主審：浅田 琉璃(福岡県) 補助審判：林原 晴(東京都) INS：石山 JFA：村上

1 次ラウンド 【マッチ No.42】 BS エスペルド-スフォンダーレ SS

主審：林原 晴(東京都) 補助審判：池川 楽人(愛媛県) INS：石山 JFA：村上

12 月 27 日@鹿児島ふれあいスポーツランド ピッチ 8

1 次ラウンド 【マッチ No.56】 モンテディオ山形庄内-フォルツァ松本

主審：林原 晴(東京都) 補助審判：池川 楽人(愛媛県) INS：石山 JFA：中岡

1次ラウンド 【マッチ No.64】 FCヴォルティエーダ沖縄-ファンタジスタ FC

主審：池川 楽人(愛媛県) 補助審判：林原 晴(東京都) INS：石山 JFA：中岡

フレンドリーマッチ 【マッチ No.F16】 FCヴォルティエーダ沖縄-パレイスト U-12

主審：浅田 琉璃(福岡県) 補助審判：林原 晴(東京都) INS：篠原 JFA：平井

12月28日@鹿児島県立鴨池補助競技場

決勝ラウンド 準々決勝 【マッチ No.81】 エクセレントフィート FC-FCリバーズ Jr

主審：林原 晴(東京都) 補助審判：岸本 大和(新潟) JFA：中岡

同日@白波スタジアム

決勝ラウンド 準決勝 【マッチ No.86】 ソレッソ熊本 U-12-デサフィオ C.F

主審：橋元 海吏(福岡) 補助審判：林原 晴(東京都) JFA：名木

振り返り

この度、第47回大会に審判員として参加させていただき本当にありがとうございました。今大会期間で自分が一番印象に残っているのは、今大会参加選手と帰りの鹿児島空港にて会話を重ねた瞬間にあります。板東氏(神奈川県レフリー)と共に空港を歩いていたのですがすれ違う選手たちは皆、「あ！ユース審判の人だ！」という声をかけてくれました。そのなかでも、「あの試合の、あのジャッジは…」という風に聞いてくる選手がいました。自分はそれを聞いて、そこまで覚えているのかと本当に驚かされました。僕ら審判員にとっては、当たり前のようにオフサイドを取り、ファールを取り、スローインを指すということをしているのだけれども、選手たちにとっては一試合の中の、あの瞬間が記憶に残り全力でプレーした結果が報われたとか報われなかったというような感情を抱いているのだと感じさせられました。また、別にチームに「みんなはグリーンカード何枚もらったの？」と聞くと僕たちのきいたチームの選手たちは「もらってない」と答え、「俺たちの責任だね」と板東氏と会話をしたことを覚えています。開会式ではレスペクトワークショップに時間をかけて行い、大会期間中に毎晩行われた講習会ではグリーンカードのあり方について深く考える機会が多くありました。本当にそのチームにグリーンカードを提示する機会はなかったのか、気付くことの大切さや、難しさが分かった瞬間でありました。審判としてもっと目を光らせていないと、反則を発見するだけでなく、いいことも発見できる審判員になりたいと思いました。

レフリングに関して

特に一次ラウンドに関して振り返る

全国大会という大舞台での審判を初めてする身としては、体が思うように動かないということが懸念されたがいざ試合となってみると緊張もなく堂々と一試合目に入ることができました。

【マッチ No.42】の試合に今回の自分の持っている引き出しがきちんと出すことができたという意識があります。具体的にはBS エスペルド vs スフォンダーレ SSの試合でこの試合は両チームロングボールを蹴って裏抜けを狙うという作戦をとっているチームでした。まず、ここでの課題としてそのチームの下調べをもっとしておくべきであると感じました。裏を多く狙ってくるのならばそれ相応の動き方がキックオフの時からできていたかもしれないし、よりレフリングの制度を上げて公平なジャッジを下すことができたのではないかと考えています。この点が試合前の準備ということで自分が課題だと思った点です。

次にこの試合での成果は、この両チームのロングボールに対して試合中に自分のポジショニング修正、改善ができたことだと考えます。前半1分15秒～20秒でロングボールに対する自分の視野の確保の仕方がコート中央から見ていたため確信をもってオフサイドなしというジャッジをすることができていないところがあります。このようなシーンがもう1、2回発生するのですが、試合の中でどうやって修正してオフサイドの判定を明確にみるかを試合中に考えることができました。自分の出した答えは「オフサイドを見るために膨らんでみる、外から見る」ということです。今までは中から外という風に視点を大きい部分から小さい部分に絞っていたのですが、この試合では各事象が進んでいってしまう前に自分が外に開きオフサイドのラインとプレーの起こっている事象全体を監視できる湯にすることが必要であると感じたのでこういった動き方になりました。

この動きをするにあたり圧倒的な走力が必要であるということ、またプレーの予測が必要であること、が再確認できました。大外からプレーを監視するということは縦の移動だけでなくコートの横移動も素早く行わなければならないということがやっていてハードだった部分でした。プレーを予測することでダッシュ、スプリントを入れる機会を減らして視野を広く保ったまま走ることができたり、監視できることが増えるともっと良いと振り返ります。

総括

選抜された6人の審判員に共通していることは何かというと、何かしらのリーダーである、もしくは何かしらのリーダーであったという点でありました。キャプテン、部長、生

徒会長、学級委員、学級委員長等々にみな手が上がっているという現状がありました。名木さんは「試合中に君たちの行っているマネジメントはもちろん、今までの審判の経験で培ってきたものがあるからできている部分もあるかもしれないけれど、審判なんて一日に2時間、一週間に十何時間もやっているわけではないでしょ。その力を育むのは日常生活の中でどれだけ自分を苦しい状況において、解決策を見出す努力をするかだよ」と教えてくださいました。今まで自分が高校のサッカー部で部長を務めてきてみんなを引っ張ってきたことは間違いではなかったのだと、名木さんは実例を伴って教えてくださいました。自分が今までしてきたことは間違いではなかったのだと、この全国という舞台でそのことが確認できたことは自分の審判活動により自信を持たせ、高校での部長という立場をもっと大切にして学びを得られる機会という前向きな形でとらえて、より励んでいこうというきっかけを作ってくれました。

この度、地元東京で私の指導に当たってくださった審判のインストラクターの方々をはじめ、ご尽力くださった先生方、現地鹿児島でここまで有意義な5日間を過ごさせてくださったインストラクターの方々、本当にありがとうございました。

この大会で得られたすべての事が今は有意義であると感じています。日常にすべてが落とし込めるかどうかは実践してみないとわかりませんが、実践しようとして、挑戦して、失敗して身近なところから学び続けていきます。この度は本当にお世話になりました。

東京都 林原晴



決勝審判団